

「(仮称)新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会」
‘まとめ報告書 本編’の構成

基調 主たる位置づけは本テーマの、市民参加による‘第一次検討結果’。役割は今後の各方面での‘勉強・議論に向けての要件整理’を主とするテキスト。
編集は原則的に諮問事項に即して...但し順序変更等は委員会の論理を重視。
各項目結論を単々と明快に、記述を簡略にし、骨子を読み取りやすく...詳細は出来るだけ「資料編」に委ねる。

目次構成

はじめに・・・本委員会の位置づけと役割・・・

1. ‘市民参加方式’の意味と委員会の構成

今回の委員会は、検討の第一段階。なぜ市民参加方式が取られているかを明確にし、市民参加の委員会として出来ること、出来ないことをはっきりとして、委員会の立場をはっきりとし、委員の責任の範囲を明確にする。

2. 主題の解釈と議論の進め方

整備用地について結論は出さず、示唆に留める。基本構想で保留されていたことを、市民参加で検討した。

3. 報告書の構成

検討三項目を中心にしながらも、委員会で浮き上がってきた「建て替えの必要性」などの話がある。

・ 検討とまとめの基本方針・・・

「全市的な議論の喚起」「ベストの施設を作る」

・ ごみ問題と対策の長期的展望と現実的選択・・・

ごみ問題全体について語り、望ましい長期的な展望と、現時点での現実論について述べる。長期的な課題として、エコセメントと非焼却の問題があり、次世代に解決していくためには、具体的にどのように動いていくのか。

・ 新施設建て替えへの背景と必要性・・・

「建て替えの必要性」について議論されてきたこと。プラントだけの入れ替えでは対応できないことについて。都のレポートを含め様々な資料があるが、ここで実証するのではなく、委員会を選んだことについて明快に述べる。詳細については資料編にて。

・新施設のあり方と求められる条件・・・

前項と同様に、これまで議論されてきた委員会が結論として選んだ規模や設備など、さらに不安要因として挙げられるダイオキシンや臭いについて、24年間のデータを基に立証し、現在行われている対応を淡々と述べ、詳細については資料編にて。

・整備用地の候補地と適合性の比較・・・

検討の筋道と条件をはっきりさせる。その上で、それぞれの条件に対する可否で絞っていく。

すでに共用されている公園の利用は現実的でないが、都市計画公園として昭和16年に都市計画決定されている「境公園」について現実的に考えられるかの検討について。現時点での考えと、将来的に考えられること。

・施設立地周辺地区のまちづくりと整備方針・・・

付加価値のある、人の集まる施設を造る。「もし現敷地内に造るのなら、どのようなまちづくりが例として挙げられるか」は書いても良い。

・今後の検討の進め方についての提案・・・

市民参加で検討するなら、どこまで検討するのか。専門家に任せるのなら、どのように任せるのか。建設までの道筋、それぞれの段階で検討されるべき内容を明確にし、ロードマップ化する。